



寒川取水施設の沿革

寒川取水施設は、昭和30年代後半からの人口の急増と産業の発展に伴い増大する水需要に対処するため実施された相模川総合開発事業により城山ダム施設、串川取水施設とともに築造されたもので、昭和38年度に完成し、取水堰、取水口、導水路及び沈砂池から構成されています。

相模川総合開発事業は、都市用水の供給と発電、洪水調節を目的に神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市との共同事業として実施され、その開発水量は、毎秒15.00m³でそのうち毎秒9.52m³が寒川取水施設で取水され、神奈川県、横浜市及び横須賀市に供給されています。

その後、昭和40年代のさらにひっ迫した水需要に対処するために実施された相模川高度利用事業により、取水施設の改良、増設が行われ、昭和46年度に完成しました。

相模川高度利用事業は、堰下流への放流水毎秒12.00m³を緊急暫定的に取水するもので、神奈川県、横浜市及び横須賀市の共同事業として実施されました。

相模川高度利用事業による水利権は暫定水利権でしたが、このうち毎秒1.00m³については、相模川河水統制事業により開発され、後に遊休化していた畑地かんがい用水を転用し、平成8年度に安定水利権（高度利用事業Ⅰ）としました。

平成12年度には、宮ヶ瀬ダムが完成し、平成13年度から宮ヶ瀬ダムの開発水の全面的な運用が開始されることになりました。

このことから、相模川高度利用事業の暫定水利権は当面必要なくなり、神奈川県内広域水道企業団が、寒川取水施設を暫定的に使用し、宮ヶ瀬ダムの開発水の一部（平成24年7月現在毎秒7.635m³）を取水することとなりました。



寒川取水施設の概要

堰 位 置	左岸 神奈川県高座郡寒川町宮山字十二天		
	右岸 神奈川県平塚市田村字天神下		
堰 形 式	動力式可動扉付フローティングコンクリート堰		
堰 高 さ	6m	堰 長 さ	270m
放 流 施 設	土砂吐水門 幅13.0m、高さ3.0m ローラーゲート 1門 洪水吐水門 幅20.0m、高さ2.5m ローラーゲート 3門		
取 水 位	標高5m		
取 水 口	幅 20m		
魚 道	階段式	流水幅10.4m	
	舟通しデニール型	流水幅 7.2m	
導 水 路	総合開発 2連箱型	高さ2.5m、幅2.3m、長さ308.8m	
	高度利用 2連箱型	高さ2.3m、幅3.3m、長さ292.75m	
沈 砂 池	総合開発 2連型	幅40.5m、長さ 75.6m、容量9,600m ³	
	計測水門	幅 4.9m、高さ 1.4m、ローラーゲート 1門	
		幅 9.0m、高さ 1.4m、ローラーゲート 2門	
	高度利用 2連型	幅40.4m、長さ105.7m、容量16,000m ³	
	計測水門	幅 6.1m、高さ 1.4m、ローラーゲート 6門	
天 日 乾 燥 床	12池 1池あたり 長さ20.0m、幅22.5m、高さ2.4m		